

平成28年5月26日
神奈川県 平成28年度C H O構想コンソーシアム第1回会議

三浦市社会福祉協議会における C H O構想の取組み

社会福祉法人三浦市社会福祉協議会
事務局次長 成田 慎一 (CHO)

三浦市の状況



神奈川県南東部、三浦半島の最南端に位置する。

人口 **44,935** 人（平成28年5月1日現在）

高齢化率 **34.7%**（平成27年1月1日）

基幹産業 第1次産業（農業 / 漁業）

隣接市 横須賀市

三浦市の財政力指数は0.66（平成26年度）

経常収支比率 104.7%（平成26年度）

遠洋マグロの基地として名を馳せ、隆盛期に市立病院、市営水道、市営魚市場を設けたが、現在では財政圧迫の要因となっている。全国に先駆け土地開発公社を解散（第三セクター等改革推進債の発行）。

地形 / 地勢から産業が限定され、就労機会の問題から人口の流出（減少）に歯止めがかからない状態。

福祉職とストレスの関係

- 福祉の“しごと”はものをつくったり、売ったりするモノ相手のしごとではなく、人が人を見るサービス業である。人間相手の“しごと”ゆえ、他の業種に比べ、ストレスがたまりやすいのかも知れない。
- 三浦市社会福祉協議会でも、ストレスに対するマネジメントやメンタルヘルスの問題にどのように対峙するかは、喫緊の課題となっていた。
- 同様に人材不足も深刻で、暗い影を落としていた。

そんなときにC H O構想を知る

- 「従業員の健康リスクの高まりに伴って、生産性の損失も大きくなるというデータが示されている。個人に任せるだけではなく、企業がきちんとした健康管理に携わることが重要になってきた」これこそが、三浦市社会福祉協議会が健康経営に取り組む最大の動機である。
- C H O構想に関する取り組みは、「超高齢社会を迎えるに当たっての先行投資」なのだという点において、三浦市は、その格好の舞台に成り得ると考えたからだ。

良い支援者であるために

- 我々を突き動かしたのは「自身が心身ともに健康でなければ『良い支援者』たりえない」という信念に他ならない。
- クライアントは我々の心身の状況をいとも簡単に見抜いてしまう。認知症の高齢者にリハビリをされていて「成田さん、今日はお疲れですね」などといわれることはしばしばである。
- こちらが意図しなくても、心身の状況というものは、相手に伝わってしまうものなのである。

三浦市社会福祉協議会の取組み

- CHO構想セミナー（平成27年10月4日）に参加し、成田（事務局事業課長・理学療法士）がCHOに任命された
- 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア推進局からの説明を受けて、当会の活動の方針を示してから、具体的な施策の開始となった。（平成27年11月19日）

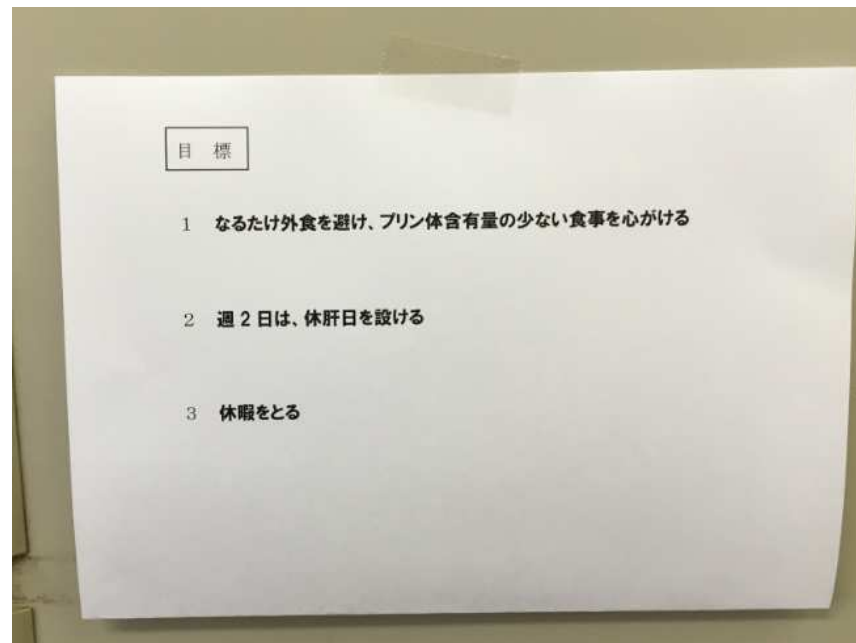
三浦市社会福祉協議会の取組み

- まずは、C H Oが、職員に対し「三浦市社会福祉協議会がなぜ、C H O構想に取り組むのか」を各事業所単位の丁寧な説明するところから始めた。
(平成27年11月25・27日)



三浦市社会福祉協議会の取組み

- 任命されたCHOが中心となって、これを機に採用した保健師や管理栄養士とともに一元的に管理できる健康増進のための環境を整えている。
- 具体的には、休肝日を設ける、タバコの本数を減らすなど『すぐできる個人目標の設定と実践』から開始。



三浦市社会福祉協議会の取組み

- 職員の適正配置、増員にも取り組み『超過勤務ゼロ作戦』を断行。（平成27年12月～）またその一環として、『職員の気持ちを正しく把握して生産性向上に繋げる』ことを目的に、「Willysm（ウィリズム）」を導入。約100名の職員に採用し、従業員のストレスチェックと面接指導の実施につなげている。（平成28年4月15日）



	月	火	水	木	金
管理者	Blue	Blue	Yellow	Red	Red
社員	Blue	Blue	Yellow	Red	Red
社員	Yellow	Yellow	Red	Red	Red
社員	Red	Red	Red	Red	Red
社員	Red	Red	Red	Red	Red



- 赤(Not So Bat)が拡大
- チームの気持ち悪化傾向
- **【生産性低下予兆】**
- 管理手法確認
- 社員の状態注意

三浦市社会福祉協議会の取組み

- 神奈川産業保健総合支援センターの職員に出張してもらい、ストレスやそれに対する対処法などを講義していただく。（平成28年2月5日、3月11日）



三浦市社会福祉協議会の取組み

ノーリフトの研修を実施する。市内の介護保険事業所にも呼びかけ公開講座とした。「持ちあげない看護・抱えあげない介護」を標榜し、介護の現場から職業病をなくしたい考え。腰痛予防につながっている。（平成28年4月26日）



三浦市社会福祉協議会の取組み

- ・ 全国健康保険協会の健診事業のお知らせが届き、**3名**の保健指導の該当者がいることが判明する。それに対して、個別の指導を**積極的支援1名**、**動機づけ支援2名**が本日指導を受けている。
- ・ 3名だけの問題としてとらえるのではなく、当会全体の問題として共有していくために、集団の指導を別途依頼する。（平成28年6月29日）

三浦市社会福祉協議会の取組み

- 産業医との契約（平成28年6月）
 - ：職員の定期的な健康状態の把握ならびに健康教育、健康相談など職員の健康保持増進を図っていく。
- タニタの体組成計の導入（平成28年6月）
 - ：体脂肪や筋肉量、骨量など人間の体の組成を計測し、職員自身の健康状態を確認する。また、歩数計とセットであるため、職員の日頃の活動量の把握も可能となる。



① 歩数計をリーダーライターにかざし、
歩数データを転送



『ピピッ』

↓
『歩数計データを送信します』

↓
『送信が終了しました』

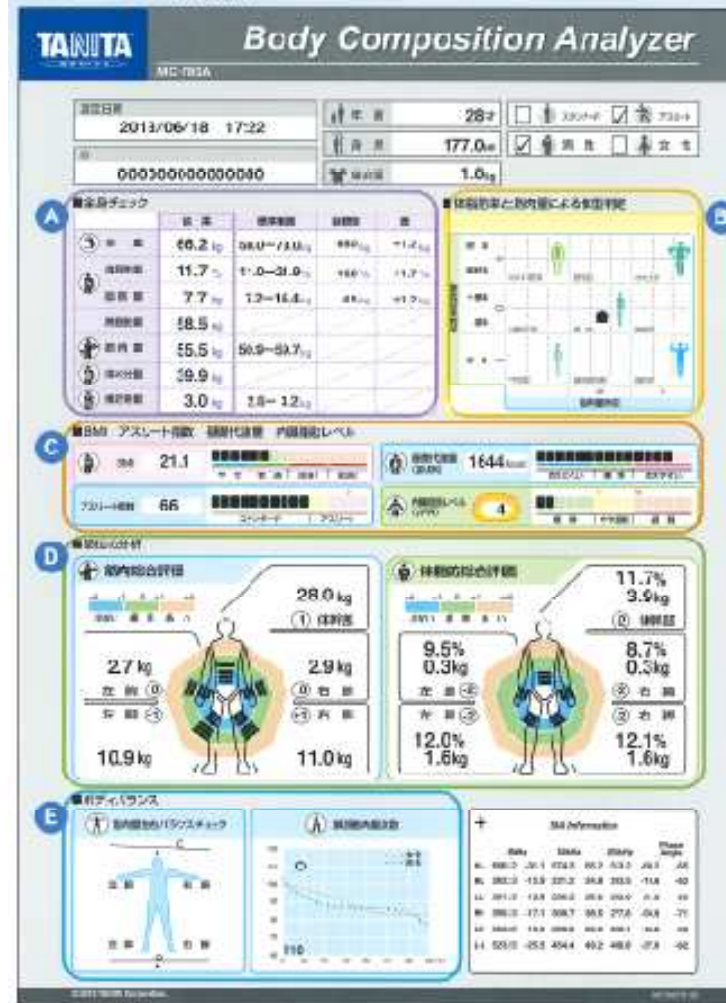
② 歩数計を体組成計にかざし、
個人認証し、体組成計を測定



歩数計をかざして『ピピッ』と鳴り、
画面にニックネームが表示されたら測定

→ データは自動でサーバーに送信

■ MC-780A専用台紙



三浦市社会福祉協議会の取組み

- CHOの取組みを法人内だけで完結するのではなく、三浦市社会福祉協議会が提供するサービスの当事者・家族にまで拡大できるような事業展開をめざす。
- それは、CHO構想の理念を三浦市社会福祉協議会が実施する事業に付帯させる作業でもあった。
- その結果生まれた事業が・・・。

C H O 構想の輪を広げる取組み

- 三浦市社会福祉協議会の組織力を生かし、その構成団体にC H O構想の輪を広げる取組みをおこなっている。
- 三浦市農業協同組合にC H O構想に対する賛同を呼びかけ、また、三浦市社会福祉協議会の取組みを報告。（平成27年12月14日）
- 三浦商工会議所にC H O構想に対する賛同を呼びかけ、また、三浦市社会福祉協議会の取組みを報告。（平成28年2月23日）
- 三浦市ボランティア連絡協議会にC H O構想に対する賛同を呼びかけ、また、三浦市社会福祉協議会の取組みを報告。（平成28年5月13日）

リハビリ体操の普及

健康寿命を延ばすためのリハビリ体操の普及である。健康に対する高齢者の意識は高く、市内各所で実施するリハビリ体操は好評である。



「介護予防インストラクター」の養成

リハビリ体操の
担い手「介護予防
インストラクター」の養成も実
施。認知症サポー
ターと未病サポー
ターのカリキュラ
ムもこれに組み込
み、三浦市独自の
認定資格制度とし
たことが大きな特
徴。修了証は三浦
市長名で発行した。



平成27年度は49名が終了。

施設の地域開放によって健康づくり



指定管理する「三浦市地域福祉センター」に社会福祉協議会が自費を投じて整備したリハビリルームを地域に開放。地域住民の自主介護予防運動の推進している。

サロンや体操教室の場づくり

現在、修了した介護予防インストラクターが様々な場所で活動を開始し始め、新たなサロンや教室が各地に増えてきている。

左は、自宅を開放したサロンとして神奈川新聞に掲載される。(平成28年5月19日朝刊)

三浦市初声町下宮田の主婦深瀬カネさん(72)が、介護予防などを目的とした健康サロンを自宅で始めた。市と市社会福祉協議会が開いた介護予防インストラクター養成講座で学んだことを生かし、参加者と体操に励む。終了後には参加者と交流を深めながら、「地域の健康づくりの拠点にしたい」と意気込んでいる。(鴻谷 創)

介護予防地域と

講座受講 三浦の主婦

自宅に健康サロン開設

17日のサロンでは、同社協スタッフのサポートを受け、近所に住む高齢者ら11人が深瀬さんとともに、椅子に座ったの全身ストレッチや認知症予防の体操に挑戦した。一体が温かくなり、「いい運動になった」。参加者からも好評だ。

深瀬さんの工夫は、市内の福祉施設でティサービス

「まずは自分の認知症防止」と話す深瀬さんだが、今度は自分が地域のためにできることを考え、昨年から今年3月までの講座に参加。理論と実践を学んだ。

「家なら会場を予約する必要もなく、体操後にゆつくりお茶を飲んで交流もできる。体操を地域に伝えていきたい」

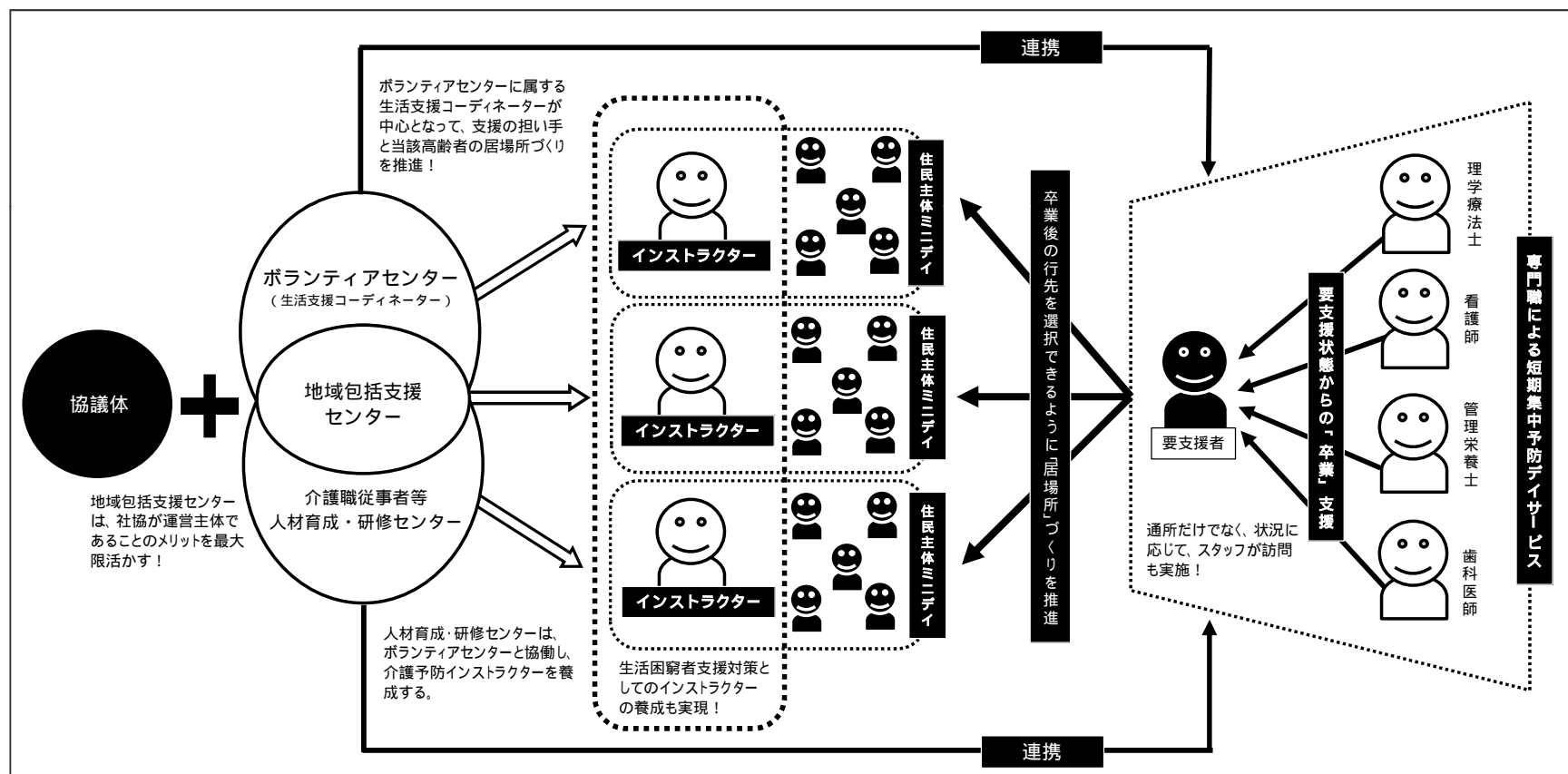
講座で学んだ市民が自宅を使っているサロン開設は県内では珍しいという。同社は「地域で健康づくりの活動をする人が増えてほしい。そのモデルケースになつてもらえれば」と期待している。

サロンは月2回開催で、次回は30日午後1時半から。参加費はお茶代として100円。問い合わせは、深瀬さん ☎046(0)00001200。



参加者とともにストレッチをする深瀬さん
＝三浦市初声町下宮田

新デイサービス開設により、目指すは「介護保険からの卒業」



“きょうだい児”支援の充実

心身ともにストレスを感じやすい
“きょうだい児”支援の充実を図った。

この日は、お父さん、お母さんを独占し、おしゃれなレストランでゆっくりと昼食を楽しんだ。



病気や障害を抱えた子どものきょうだいを「きょうだい児」という。

「トリプルP」の普及

子育てに悩む母親を対象に「トリプルP」の技法を用いた子育て術について学んでいた。



トリプルPとは、Positive Parenting Program（前向き子育てプログラム）のことです。幼児からティーンエイジャーまでの子どもの行動・情緒問題の予防と治療を目的に作られました。プログラムで使用される17の技法の半数以上が、前向きな関係・態度・行動の形成に焦点が置かれています。トリプルPは、家庭・学校・地域で子どもの問題が発生する前に予防すること、そして子どもたちの可能性を發揮させるために彼らを励ます家庭環境を作り出すこと、をゴールとしています。数十年の研究と臨床試験に基づいて、近年、トリプルPは世界中の政府や保健部門の専門家に採用されてきています。（特定非営利活動法人 Triple P Japan HPより）

地場野菜を使った食事の提供

就労支援センター「どんまい」による地場野菜（自らも栽培）を使った食事の提供と新規メニューの提案を管理栄養士との協働作業でおこなった。



ＣＨＯ構想に取り組みの効果の検証

- 個人目標の達成度の評価（平成２８年１０月）
- 健康診断の結果から追跡調査（平成２８年１１月）
- 活動量計とウィリズムによるデータの集計（平成２８年１２月）

福祉功労者式典及び賀詞交歓会において好成績の職員を表彰する（平成２９年１月）

今後予定している活動

ＣＨＯ構想の取組みを職員のみならず、その家族にまで広げるために今年度は、その地の利を生かし、神奈川県が近郊緑地特別保全地区に指定した「小網代の森」をハイキングしたり、ソフトボール大会の開催を予定している。



平成27年度は、その試行として三浦市ボランティア連絡協議会の会員を対象に散策をおこなった。

レスパイトサービスの開発・実施・検証

乳幼児や障害児・者、高齢者などを在宅でケアしている家族を癒やすため、一時的にケアを代替し、リフレッシュを図ってもらう家族支援サービス、レスパイトサービスの開発・実施・検証をおこない、「介護疲れによる不幸な事故・事件」の撲滅をめざす。そのために、この問題の早期発見・早期解決を目途に、生活支援コーディネーターの活動を補完する「地域福祉活動広報員」を市内各所に配置したい考え。地域福祉活動広報員が吸い上げてきたニーズを新たなサービスの開発に活かしていく。

三浦市との連携

三浦市の健康づくり課に三浦市社会福祉協議会の活動とその成果を報告し、C H O構想の実現にむけて官民一体となって取り組めるようなタイアップ事業を提案・創設する。

三浦市では、ボランティア・市民活動者の労苦を顕彰すべく、年度末に三浦市の特産品を景品として開催される「市民活動デイ大抽選会」を実施している。大きな特徴は、ボランティア・市民活動者にだけでなく、健康診断を受けた市民にも抽選会にエントリーするためのポイントが付与される点だ。こうした先駆的な取り組みとC H O構想を融合させたい考えである。

三浦市社会福祉協議会はC H O構想の スポークスマンとなる！



三浦市社会福祉協議会が取り組むC H O構想専用のホームページを開設した。三浦市社会福祉協議会は、三浦市におけるC H O構想のスポークスマンとなる決意である！その延長線上に見据えるのは「地域包括ケア」システムの構築である。



ご清聴誠にありがとうございました。